

# 愛川町ごみ質分析調査及び 食品ロス実態調査結果 報告書

令和元年7月

環境経済部環境課

## 目 次

1	目的	1
2	調査実施日	1
3	調査品目	2
4	調査方法・手順	3
5	組成分析結果	6
5-1	5ブロック全体の結果	6
5-2	各ブロックの結果	7
5-3	課題	12
6	食品ロス実態調査	15
6-1	食品ロスとは	15
6-2	実態調査結果	16
6-3	課題	20
7	調査資料集	22
	参考資料	25

## 1 目的

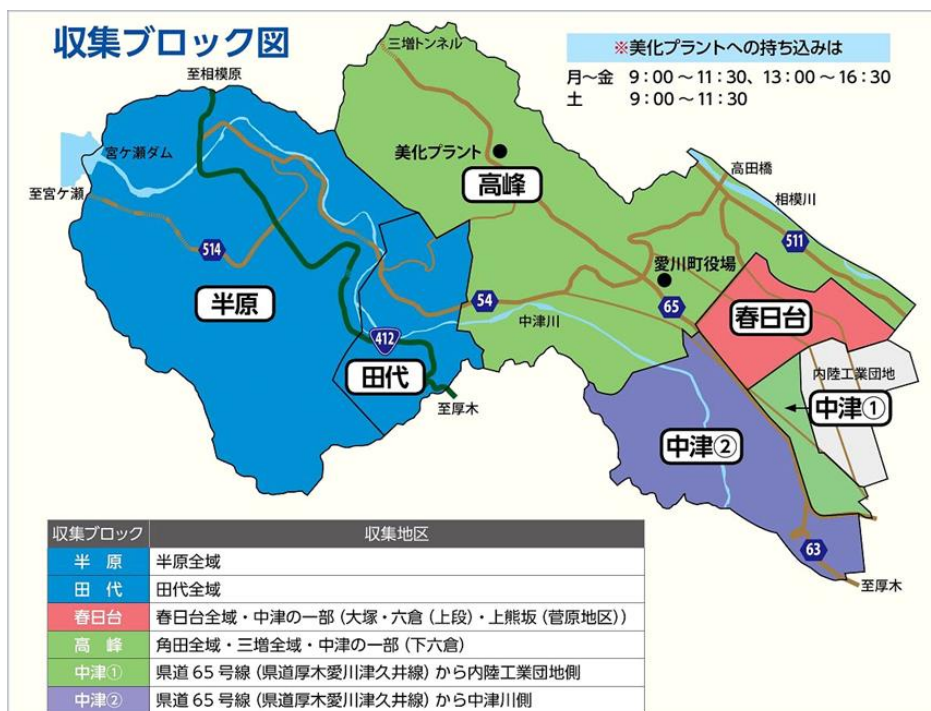
ごみの減量化・資源化の推進等を目的に、現状における可燃ごみの分別状況と過去に実施した当該調査結果を比較し、分別の達成状況の変化や今後の課題を把握するため、次のとおりごみ質分析調査を実施する。

なお、食品ロスについて、本年5月30日に公布された「食品ロスの削減の推進に関する法律」に、実態調査等について規定がされていることから、平成30年度の調査より引き続き行う調査及び研究を行なうものとする。

## 2 調査実施日

- 1) 半原・田代ブロック：令和元年6月27日（木）
- 2) 高 峰 ブ ロ ッ ク：令和元年6月18日（火）
- 3) 春日台ブロック：令和元年6月24日（月）
- 4) 中津①ブロック：令和元年6月25日（火）
- 5) 中津②ブロック：令和元年6月14日（金）

なお、本調査の対象は、「もやすごみ」とする。各収集ブロックの図面は次のとおり。



※町発行「ごみと資源 新分別の手引き」より

### 3 調査品目

湿ベース品目		備 考
紙 類	新聞・折込チラシ	資源化可能なもの
	雑誌・本・書籍	資源化可能なもの
	ダンボール	資源化可能なもの
	雑古紙（封筒・紙製容器など）	資源化可能なもの
	紙パック	資源化可能なもの
古 着 類		
生 ご み	直接廃棄	未開封・未加工食品等
	食べ残し	開封済み・加工済み食品等
	調理くず	魚などの骨や食品の皮など通常食べずに廃棄するもの
	（過剰除去）	調理くずの中で、本来食べれる部分まで過剰に除去されているもの
その他の可燃ごみ		生ごみ以外の可燃ごみ
不 分 別 物 （ 可 燃 ご み 以 外 ）	資源A B	不燃ごみ類、ビン、乾電池、缶、ペットボトル等
	資源C（プラスチック製容器包装）	ボトル類、チューブ類、ポリ袋、ラップ類、網・ネット類、ふた・キャップ類、トレイ類、緩衝材
	資源C（剪定枝・落葉・草類等）	

## 4 調査方法・手順

### (1) 収集車両



直接廃棄された食品ロスの実態調査も兼ねているため、塵芥収集車は使用せず、破袋することなく収集を行なえる平ボディのトラックを使用し、収集を行なう。

### (2) 採取状況



町内の収集ブロック別に収集所を巡り、排出されているごみ袋（以下「検体」という。）をランダムに採取する。

検体は収集ブロックごとに、重量で100kg以上を採取することを目安に、30袋ほど採取する。

### (3) 採取後



採取終了後は町ごみ中間処理施設である美化プラントで、組成率等調査を行なう。



#### (4) 計量前準備



検体の重量を量るための計量器や、手選別を行なうためブルーシートを用意する。また、このとき選別用に調査品目毎の表示をしたかごも併せて用意した。

#### (5) 計量 ～ 選別



はじめに、採取した検体の数量を数え、全ての重量を計量器で量る。



次に、全重量の中から4分の1程度の量になるよう検体を選別する。このとき、外観で明らかに「もやすごみ」ではないものが大半を占めている検体については、組成率に偏りが生じてしまうため、調査対象としないこととする。





作業台を用意し、台の上で選別した検体を、項目3の調査品目に沿って手選別する。

### (6) 各調査品目の計量



選別後、調査品目毎に計量を行う。

### (例) 調査対象外とした検体の例

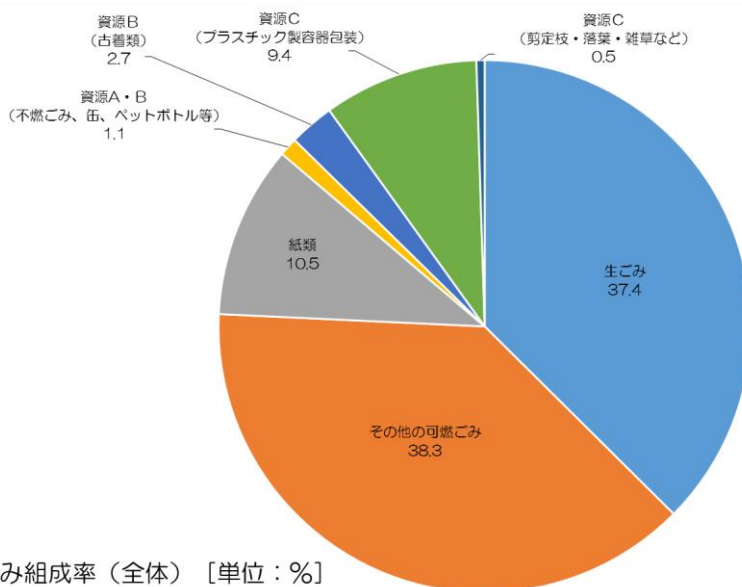


外観で明らかに刈り草のみが排出されているものなどは、組成率に偏りが生じてしまうため対象外とした。また、事業系ごみの疑いが強いものは、事業系ごみが混入することによって、家庭系ごみの組成率が適正に調査できなくなってしまうことから、同じく調査の対象外とした。

## 5 組成分析結果

### 5-1 5ブロック全体の結果

採取地区	全 体	
採取(調査)日		
天 候		
開始・終了時刻		
作業人員(人)		
採取検量(kg)・袋数(袋)	575.34	156
調査検量(kg)・袋数(袋)	148.26	40
湿ベース組成品目	重量(kg)	重量比(%)
生ごみ	55.50	37.43
食品ロス	40.57	27.36
直接廃棄	13.72	9.25
食べ残し	20.52	13.84
(調理くずの内、過剰除去の推計量)	6.33	4.27
調理くず等	21.26	14.34
その他の可燃ごみ	56.79	38.30
もやすごみ	112.29	75.74
紙類	15.54	10.48
新聞・折込チラシ(資源化可能なもの)	2.63	1.77
雑誌・本・書籍(資源化可能なもの)	1.80	1.21
ダンボール(資源化可能なもの)	1.18	0.80
雑古紙(資源化可能なもの)	8.66	5.84
紙パック(資源化可能なもの)	1.27	0.86
不分別物	20.43	13.78
資源A・B (不燃ごみ、缶、ペットボトル等)	1.66	1.12
資源B (古書類)	4.05	2.73
資源C (プラスチック製容器包装)	13.98	9.43
資源C (剪定枝・落葉・雑草など)	0.74	0.50
紙類 + 不分別物 (A)	35.97	24.26
総 量 (kg) (B)	148.26	
分別率(100-(A/B)) (%)	75.74	



グラフより、「生ごみ」と「その他の可燃ごみ」を合わせた、純粋な「もやすごみ」は、約75%となり、残りの約25%は資源物が含まれている結果となった。

資源物の中では、紙類が1番多く約10.5%、次にプラスチック製容器包装が約9.5%である。

当調査では各収集ブロックから合わせて約575kgの検体を採取し、そのうち、およそ4分の1の量にあたる約148kgの検体を調査した。表は、採取した全検体の重量、そのうち調査した検体の重量、手選別後の調査品目ごとの重量を示している。また、調査品目ごとに、調査した検体の総量に対する組成率を算出した。

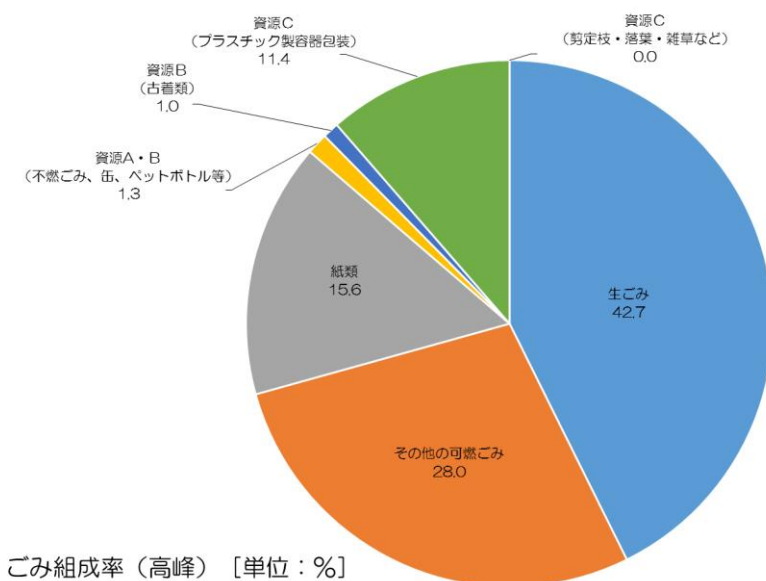
なお、生ごみ中の過剰除去については、神奈川県で平成30年3月に策定した「食品ロスの調査マニュアル」を参考に、環境省作成「平成30年度食品廃棄物等の発生抑制及び再生利用の促進の取組に係る実態調査報告書」で公表している、生ごみ全体の量に対する調理くずの割合11.4%を乗じて算出した推計値を用いている。



## 5-2 各ブロックの結果

### (1) 高峰

採取地区	高峰地区	
採取(調査)日	令和元年6月18日(火)	
天候	晴	
開始・終了時刻	7:30～12:30	
作業人員(人)	2.0	
採取検量(kg)・袋数(袋)	105.50	32
調査検量(kg)・袋数(袋)	29.16	8
湿ベース組成品目	重量(kg)	重量比(%)
生ごみ	12.44	42.66
食品ロス	10.84	37.17
直接廃棄	5.58	19.14
食べ残し (調理くずの内、過剰除去の推計量)	3.84	13.17
調理くず等	3.02	10.36
その他の可燃ごみ	8.17	28.02
もやごみ	20.61	70.68
紙類	4.56	15.64
新聞・折込チラシ(資源化可能なもの)	0.53	1.82
雑誌・本・書籍(資源化可能なもの)	1.62	5.56
ダンボール(資源化可能なもの)	0.66	2.26
雑古紙(資源化可能なもの)	1.52	5.21
紙パック(資源化可能なもの)	0.23	0.79
不分別物	3.99	13.68
資源A・B (不燃ごみ、缶、ペットボトル等)	0.38	1.30
資源B (古着類)	0.29	0.99
資源C (プラスチック製容器包装)	3.32	11.39
資源C (剪定枝・落葉・雑草など)	0.00	0.00
紙類 + 不分別物 (A)	8.55	29.32
総量(kg)(B)	29.16	
分別率(100-(A/B))(%)	70.68	



高峰では他の地域に比べ、「生ごみ」が多い結果となった。食べきれずに捨ててしまった、「食品ロス」が多かったためである。地域特性として、スーパーやコンビニ等が少ないことから、食品の買い溜めや、作りおきしていることが考えられる。

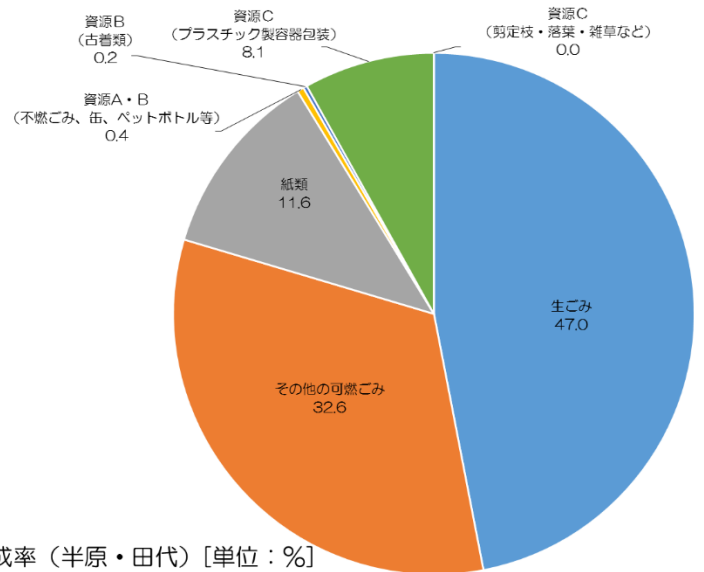
資源物についても、総量に対して約30%と多く含まれており、内訳としては紙類が約16%、プラスチック製容器包装が約11.5%含まれている結果となった。



組成率の結果には、「資源C(選定枝・草等)」が含まれてはいないが、収集所に排出されているケースは多く確認できた。

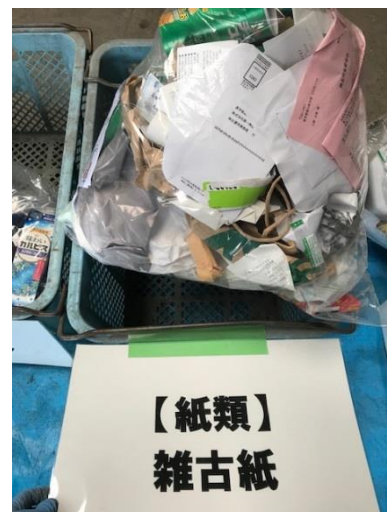
## (2) 半原・田代

採取地区	半原・田代地区	
採取(調査)日	令和元年6月27日(木)	
天候	曇	
開始・終了時刻	7:30～12:30	
作業人員(人)	2.0	
採取検量(kg)・袋数(袋)	111.28	32
調査検量(kg)・袋数(袋)	33.82	8
選べース組成品目	重量(kg)	重量比(%)
生ごみ	15.88	46.95
食品ロス	14.69	43.44
直接廃棄	4.92	14.55
食べ残し	7.96	23.54
(調理くずの内、過剰除去の推計量)	1.81	5.35
調理くず等	3.00	8.87
その他の可燃ごみ	11.04	32.64
もやすごみ	26.92	79.60
紙類	3.94	11.65
新聞・折込チラシ(資源化可能なもの)	1.32	3.90
雑誌・本・書籍(資源化可能なもの)	0.00	0.00
ダンボール(資源化可能なもの)	0.00	0.00
雑古紙(資源化可能なもの)	2.40	7.10
紙パック(資源化可能なもの)	0.22	0.65
不分別物	2.96	8.75
資源A・B(不燃ごみ、缶、ペットボトル等)	0.14	0.41
資源B(古着類)	0.08	0.24
資源C(プラスチック製容器包装)	2.74	8.10
資源C(剪定枝・落葉・雑草など)	0.00	0.00
紙類 + 不分別物 (A)	6.90	20.40
総量(kg)(B)	33.82	
分別率(100-(A/B))(%)	79.60	



半原・田代では、「生ごみ」が多い結果となった。内容物や高峰と同様に地域特性として、スーパーやコンビニ等が少ないことから、食品の買い溜めや、作りおきしていることが推測できる。

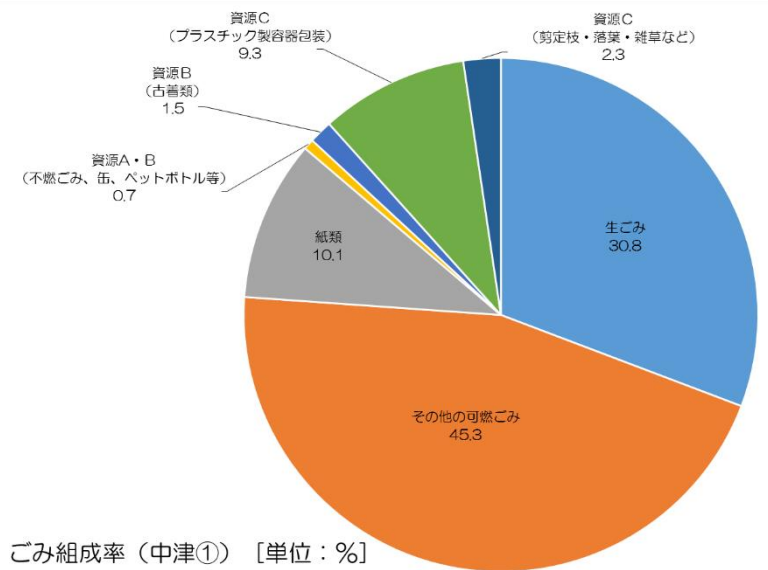
資源物では、「紙類」が約12%含まれており、次いで、「プラスチック製容器包装」が多い結果となった。紙類の大半は雑古紙であった。



左が「生ごみ」で、右が「雑古紙(紙類)」である。生ごみは大半が食品ロスであった。また、雑古紙も写真のとおり袋いっぱいになるくらい排出されていた。

### (3) 中津①

採取地区	中津①地区	
採取(調査)日	令和元年6月25日(火)	
天候	曇	
開始・終了時刻	7:30～12:30	
作業人員(人)	20	
採取検量(kg)・袋数(袋)	116.26	32
調査検量(kg)・袋数(袋)	27.30	8
湿ベース組成品目	重量(kg)	重量比(%)
生ごみ	8.40	30.77
食品ロス	3.62	13.25
直接廃棄	0.68	2.49
食べ残し	1.98	7.25
(調理くずの内、過剰除去の推計量)	0.96	3.51
調理くず等	5.74	21.03
その他の可燃ごみ	12.38	45.35
もやすごみ	20.78	76.12
紙類	2.76	10.11
新聞・折込チラシ(資源化可能なもの)	0.50	1.83
雑誌・本・書籍(資源化可能なもの)	0.00	0.00
ダンボール(資源化可能なもの)	0.10	0.37
雑古紙(資源化可能なもの)	1.98	7.25
紙バック(資源化可能なもの)	0.18	0.66
不分別物	3.76	13.77
資源A・B(不燃ごみ、缶、ペットボトル等)	0.18	0.66
資源B(古書類)	0.40	1.47
資源C(プラスチック製容器包装)	2.54	9.30
資源C(剪定枝・落葉・雑草など)	0.64	2.34
紙類 + 不分別物(A)	6.52	23.88
総量(kg)(B)	27.30	
分別率(100・(A/B)) (%)	76.12	



中津①は内陸工業団地の外周沿いにあるため、アパートなど単身世帯向け住宅が多くあり、自炊をしていない世帯が多いことが推測される。このことから、他の地域に比べ、生ごみが少ない結果となった。また、住宅地部分も多いことから、今回の調査ではオムツ等が多く「その他可燃ごみ」が半数近くを占めた。

資源物では、「紙類」が約10%含まれており、「プラスチック製容器包装」が約9%含まれていた。

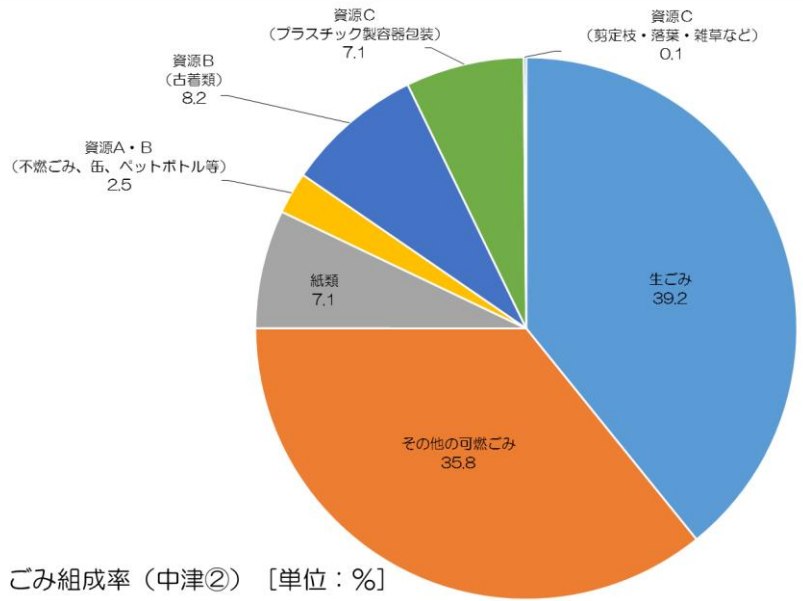


雑古紙やプラスチック製容器包装も多く排出されていたが、オムツ等が多く排出されていた。



(4) 中津②

採取地区	中津②地区	
採取(調査)日	令和元年6月14日(金)	
天候	晴	
開始・終了時刻	7:30 ~ 12:00	
作業人員(人)	2.0	
採取検量(kg)・袋数(袋)	109.06	30
調査検量(kg)・袋数(袋)	28.02	8
湿ベース組成品目	重量(kg)	重量比(%)
生ごみ	10.98	39.19
食品ロス	7.41	26.45
直接廃棄	2.34	8.35
食べ残し	3.82	13.63
(調理くずの内、過剰除去の推計量)	1.25	4.47
調理くず等	4.82	17.20
その他の可燃ごみ	10.04	35.83
もやすごみ	21.02	75.02
紙類	1.98	7.07
新聞・折込チラシ(資源化可能なもの)	0.00	0.00
雑誌・本・書籍(資源化可能なもの)	0.18	0.64
ダンボール(資源化可能なもの)	0.06	0.21
雑古紙(資源化可能なもの)	1.52	5.42
紙パック(資源化可能なもの)	0.22	0.79
不分別物	5.02	17.92
資源A・B(不燃ごみ、缶、ペットボトル等)	0.70	2.50
資源B(古着類)	2.30	8.21
資源C(プラスチック製容器包装)	1.98	7.07
資源C(剪定枝・落葉・雑草など)	0.04	0.14
紙類 + 不分別物(A)	7.00	24.98
総量(kg)(B)	28.02	
分別率(100-(A/B))(%)	75.02	



中津②はアパートなど単身世帯向け住宅が多くあり、紙類やプラスチック製容器包装などの資源物が多く含まれていた。

今回の調査では、飲み残しのペットボトル飲料(食べ残しを含む)が大量に含まれている検体を調査したことにより、「生ごみ」の割合が大きくなった。

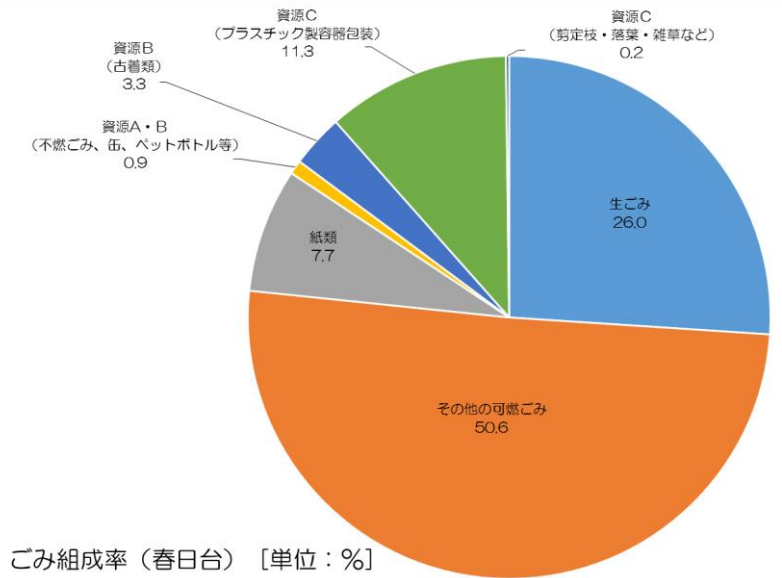


ライター等の不燃ごみの割合が各ブロックの中で一番多かった。また、右図は飲み残しのペットボトル飲料が多く確認できた。



## (5) 春日台

採取地区	春日台地区	
採取(調査)日	令和元年6月24日(月)	
天候	雨	
開始・終了時刻	7:30～12:30	
作業人員(人)	20	
採取検量(kg)・袋数(袋)	13324	30
調査検量(kg)・袋数(袋)	2996	8
選別ベース組成品目	重量(kg)	重量比(%)
生ごみ	7.80	26.03
食品ロス	4.01	13.38
直接廃棄	0.20	0.67
食べ残し	2.92	9.75
(調理くずの内、過剰除去の推計量)	0.89	2.97
調理くず等	4.68	15.62
その他の可燃ごみ	15.16	50.60
もやすごみ	22.96	76.64
紙類	2.30	7.68
新聞・折込チラシ(資源化可能なもの)	0.28	0.93
雑誌・本・書籍(資源化可能なもの)	0.00	0.00
ダンボール(資源化可能なもの)	0.36	1.20
雑古紙(資源化可能なもの)	1.24	4.14
紙バック(資源化可能なもの)	0.42	1.40
不分別物	4.70	15.69
資源A・B(不燃ごみ、缶、ペットボトル等)	0.26	0.87
資源B(古着類)	0.98	3.27
資源C(プラスチック製容器包装)	3.40	11.35
資源C(剪定枝・落葉・雑草など)	0.06	0.20
紙類 + 不分別物 (A)	7.00	23.36
総量(kg)(B)	2996	
分別率(100-(A/B)) (%)		76.64



春日台では子育て世帯が多いのか、紙おむつが多くみられた。そのため、重量の割合は約51%が「その他の可燃ごみ」となった。しかし、他の地域に比べ「生ごみ」は少ない結果である。

資源物の中では、プラスチック製容器包装が多く、11%以上であった。



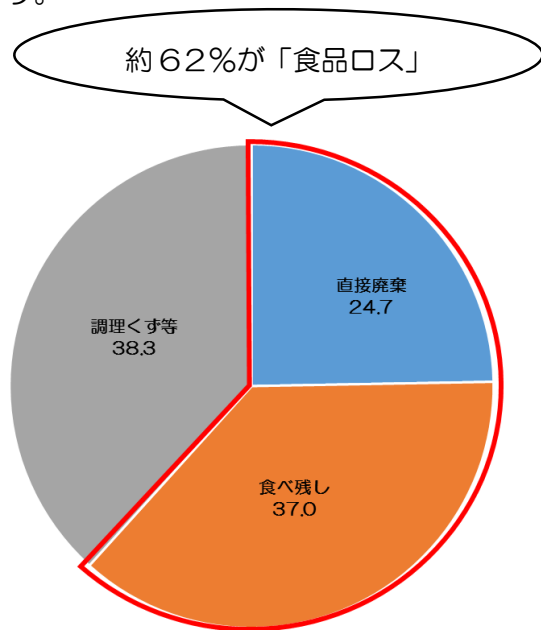
左図は使用済み紙おむつの写真であり、今回の調査で多く排出されていることを確認した。右図は選別後のプラスチック製容器包装である。

### 5-3 課題

本調査の結果、「もやすごみ」の組成率の内訳として、「生ごみ」及び生ごみ以外の「その他の可燃ごみ」が約75%であることが分かった。次に「生ごみ」及び「その他の可燃ごみ」それぞれの課題等については次のとおり。

#### ○「生ごみ」

品目	重量 (kg)	重量比 (%)
生ごみ	55.50	100.00
食品ロス	40.57	61.69
直接廃棄	13.72	24.72
食べ残し	20.52	36.97
(調理くすの内、過剰除去の推計量)	6.33	
調理くす等	21.26	38.31



生ごみの構成比は上の表及びグラフで表すとおりとなり、「生ごみ」として排出されているもののうち、約62%が「食品ロス」であることが分かった。なお、食品ロスのうち、

「過剰除去」については、生ごみの重量から算出した推計量であることから、構成比中に含まないこととした。

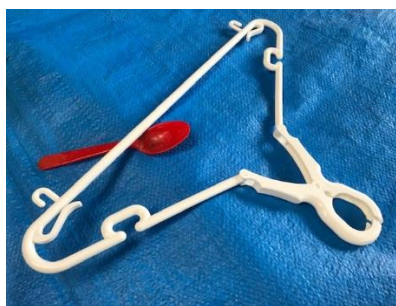
さて、ごみの減量をする上で、「生ごみ」の減量化は必須となるが、結果から分かるように、まずは「食品ロス」の発生抑制をすることが、「生ごみ」減量の課題であると認識できる。

#### ○「その他の可燃ごみ」

その他の可燃ごみは、使用済み紙おむつやティッシュペーパーなどが主な内容物であるが、使用済み紙おむつについては国で現在、将来的に資源化等に関する仕組み等を検討しているため、町においても検討材料として、来年度以降、使用済み紙おむつの発生量についても調査を検討したい。また、容器包装物に該当しないプラスチック製廃棄物（以下、「廃プラスチック」という。）についても、発生量等について調査研究を行なうため、同じく調査を検討したい。



使用済み紙おむつ



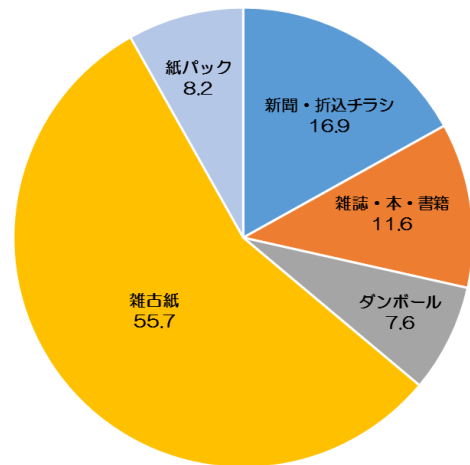
廃プラスチック

次に、約25%含まれていた資源物について、特に多い「紙類」、「プラスチック製容器包装」を次に示す。

○「紙類」

紙類の内訳

品目	重量 (kg)	重量比 (%)
紙類	15.54	100.00
新聞・折込チラシ	2.63	16.92
雑誌・本・書籍	1.80	11.58
ダンボール	1.18	7.59
雑古紙	8.66	55.73
紙パック	1.27	8.17



紙類の構成比[%]

町では、「新聞・チラシ」、「雑誌・本」、「ダンボール」、「紙パック」以外でリサイクルできる紙を「雑古紙」として回収しているが、本調査における「紙類」の構成の内訳について、表及びグラフから半数以上が「雑古紙」とであると分かる。課題としては、「雑古紙」のリサイクルについて、さらに周知をすることで「もやすごみ」に混入する「雑古紙」を減量することである。



左が手選別中の雑古紙等の図である。トイレットペーパー等の芯やティッシュペーパーの空き箱など多くの雑古紙が確認できた。

右は今年度作成した「雑古紙回収袋 (お試し版)」であり、雑古紙のリサイクルに関する啓発品である。このような啓発物を活用し、雑古紙というものの認知度やリサイクルができるということについて周知をする。



### ○「プラスチック製容器包装」

町では容器リサイクル法に規定される、プラスチック製の容器包装廃棄物を「プラスチック製容器包装」として収集しているが、今回の調査では「もやすごみ」中に約9.5%含まれていることが分かった。



上の写真は調査中に確認したペットボトルのラベルである。このことから、ペットボトル本体の分別は広く認知されているが、「プラスチック製容器包装」についてはまだ、認知されていない部分があることが分かる。今後は、広報紙やホームページ等を通じて周知及び啓発を行い、分別を呼びかける。

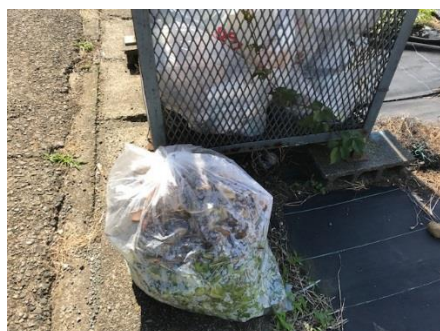
### ○「その他の資源物」

- ・「不燃ごみ、カン、ペットボトル等」



その他の資源物として、割合自体は多くないものの分別されていないものが、少なからずある。特に、左図のような「スプレー缶」は収集車両の火災等の恐れがあるため、「もやすごみ」には入れないよう、引き続き周知をしたい。

- ・「剪定枝・草等」



組成率調査の結果に偏りが生じてしまうことから、明らかに「剪定枝・草等」のみが排出されているものは、調査の対象外としていたが、収集所に排出されているケースが確認できたことから、剪定枝や草等も資源としてリサイクルできる旨を周知する必要がある。



## 6 食品ロス実態調査

### 6-1 食品ロスとは

賞味期限等が切れてしまったことにより、手つかずのまま廃棄されてしまった食品や、まだ食べることができるのに、食べ残されてしまい廃棄されてしまう食品などを「食品ロス」という。

食品ロスは、次の3つに分類することができる。写真は今回の調査で確認できた実例である。

#### (1) 直接廃棄



賞味期限等が切れてしまった食品や、使いきれずに「手つかず」のまま、廃棄されてしまう食品廃棄物を「直接廃棄」という。

#### (2) 食べ残し



食べることができずに廃棄されたものや、使いきることができないまま、廃棄されてしまう食品廃棄物を「食べ残し」という。

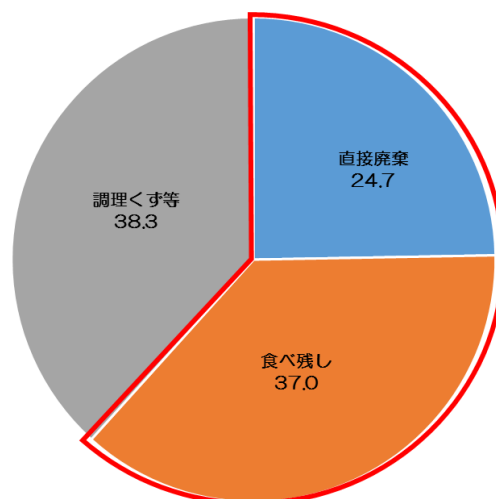
#### (3) 過剰除去



本来食べることができる可食部まで過剰に取り除かれ、廃棄されてしまう食品廃棄物を「過剰除去」という。

## 6-2 実態調査結果

品目	重量 (kg)	重量比 (%)
生ごみ	55.50	100.00
食品ロス	40.57	61.69
直接廃棄	13.72	24.72
食べ残し	20.52	36.97
(調理くずの内、過剰除去の推計量)	6.33	
調理くず等	21.26	38.31



生ごみの構成比[%]

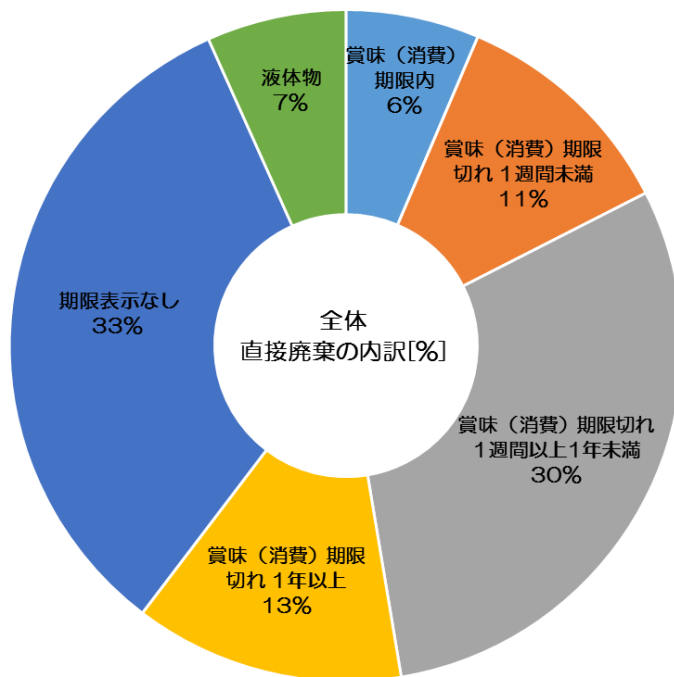
5-3より、「生ごみ」の構成比は表及び図のとおりとなり、約62%が食品ロスに該当することが分かる。

さらに詳細を調査するため、本調査から「直接廃棄」及び「食べ残し」の消費期限及び賞味期限に着目し、「賞味（消費）期限内」、「賞味（消費）期限切れ 1 週間未満」、「賞味（消費）期限切れ 1 週間以上 1 年未満」、「賞味（消費）期限切れ 1 年以上」、「期限表示なし」そして「液体物」の項目を設定し、調査を行った。なお、液体物は調味料など液体の食品のことである。

まず、検体全体における直接廃棄の結果については、次のとおり。

項目	重量 (kg)	内訳 (%)
直接廃棄	13.72	100.00
賞味（消費）期限内	0.88	6.41
賞味（消費）期限切れ 1 週間未満	1.52	11.08
賞味（消費）期限切れ 1 週間以上 1 年未満	4.10	29.88
賞味（消費）期限切れ 1 年以上	1.78	12.97
期限表示なし	4.52	32.94
液体物	0.92	6.71

直接廃棄された食品の内訳は表のとおりとなり、図で表すと次のようになる。



グラフより、野菜等の期限表示がない食品が一番大きい割合となった。また、次に多かったものとして賞味（消費）期限切れから1週間以上1年未満のもので、加工食品や肉などの食品がほとんどである。なお、その他の例として、賞味（消費）期限切れから1年以上のものは乾麺などの保存食系の食品が多く、賞味（消費）期限切れから1週間未満のものは菓子パンなどが多かった。

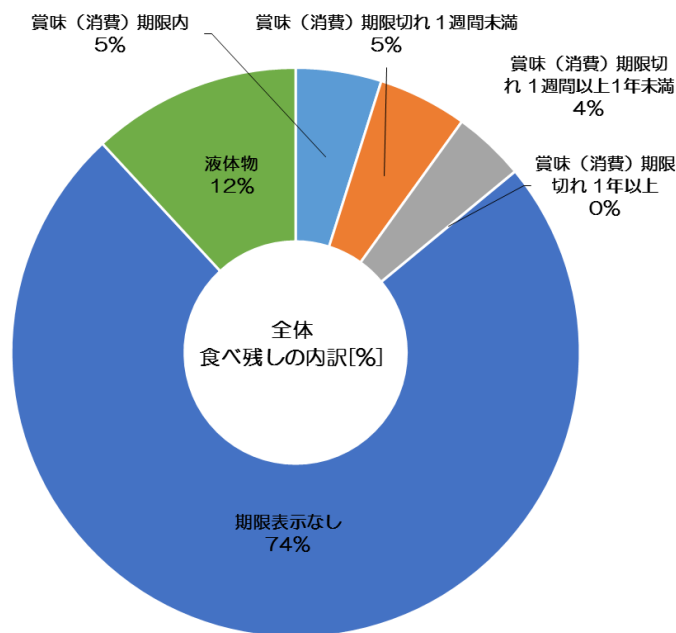


期限表示のない食品の例

次に検体全体における食べ残しの結果は次のとおり。

項目	重量 (kg)	内訳 (%)
食べ残し	20.52	100.00
賞味（消費）期限内	1.00	4.87
賞味（消費）期限切れ 1週間未満	1.04	5.07
賞味（消費）期限切れ 1週間以上1年未満	0.84	4.09
賞味（消費）期限切れ 1年以上	0.00	0.00
期限表示なし	15.20	74.07
液体物	2.44	11.89

食べ残された食品の内訳は表のとおりとなり、図で表すと次のようになる。



グラフより期限表示のない食品が大半を占めていることが分かる。料理の食べ残しや冷凍保存したものがほぼすべてである。なお、液体物については本調査中に、飲みかけの飲料がそのまま廃棄されている検体を調査したことから、食べ残しに占める割合が大きくなったものと思われる。その他の食品として、食べ残された、お弁当や使いかけの調味料などが多くあった。



飲みかけの飲料

本調査における検体の総量148.26kgに対し、食品ロスの量は40.57kgとなり、割合にすると約27.4%となった。この割合は、環境省作成「平成30年度食品廃棄物等の発生抑制及び再生利用の促進の取組に係る実態調査報告書」中の家庭系ごみに占める食品ロス発生量31%（平成28年度）と比較すると、本町の割合は低い値となった。

本調査の割合及び神奈川県ごみ処理広域化推進会議作成「家庭から排出される食品廃棄物に占める食品ロスの調査マニュアル」を基に平成29年度の食品ロス発生量の推計を算出すると、

- 本調査における食品ロス（直接廃棄・食べ残し・過剰除去）の割合から算出した平成29年度の食品ロス発生量

$$\begin{array}{r}
 \underline{6,533} \text{ (t)} \\
 \text{平成29年度 神奈川県} \\
 \text{一般廃棄物処理事業の概要} \\
 \text{「生活系可燃ごみ等収集量」}
 \end{array}
 \times
 \begin{array}{r}
 \underline{0.27} \\
 \text{本調査における} \\
 \text{食品ロスの割合}
 \end{array}
 =
 \begin{array}{r}
 \underline{1,790.04} \text{ (t)} \\
 \text{平成29年度に発生} \\
 \text{したと思われる食品ロス}
 \end{array}$$



以上の計算より、町では年間で約1,790トンの食品ロスが発生していると推測することができる。さらに、平成29年度における一人あたりの年間排出量は次のとおり。

- 平成29年度の一人あたりの食品ロス発生量

$$\frac{1,790,040 \text{ (kg)}}{40,010 \text{ (人)}} = 44.7 \text{ (kg/人)}$$

平成29年度に発生したと思われる食品ロス
人口  
(平成29年10月1日現在)
平成29年度に発生したと思われる一人あたりの食品ロス

また、現行の食品ロスの実態調査を開始した平成30年度（昨年度）と食品ロスの割合を比較すると次のとおりとなる。

調査検量の総量に対する食品ロスの割合等

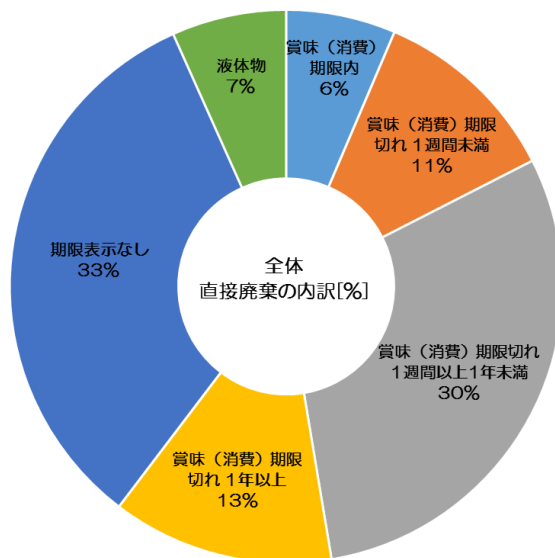
	H30	R1
当該年度に調査した検体の総量に占める食品ロスの割合 (%)	14.5	27.4
直接廃棄	3.7	9.3
食べ残し	7.1	13.8
過剰除去 (推計量)	3.7	4.2
発生量推計 (t)	949.5	1,790.0
原単位 (kg/人)	23.6	44.7

平成30年度（昨年度）と比較すると、全体的に割合等が大きくなっていることが分かる。しかし、検証をするには、まだデータが不足しているので引き続き調査を実施したい。

### 6-3 課題

本調査の結果、生ごみ中の食品ロスは約62%と大半を占めていることが分かり、食品ロスはもとより、ごみの減量化を推進する上でも食品ロスの削減は重要であることが分かる。食品ロスの項目ごとにおける課題や対策について次に示す。

#### ○直接廃棄



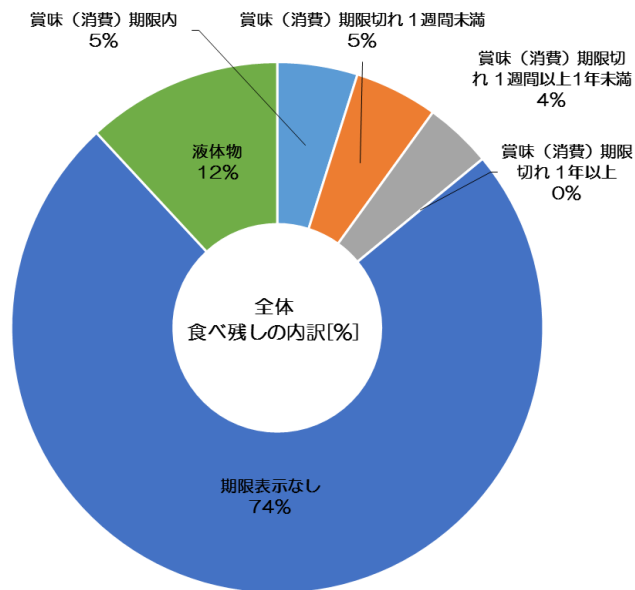
直接廃棄された食品の中でも特に多かった期限表示がない食品については、購入時の量や食材の使い切りの徹底などを周知することで、廃棄する食品の発生抑制を促したい。また、賞味（消費）期限切れから1週間以上1年未満の食品についても同様に、購入量や使いきり、食べきりについて周知することと併せ、賞味（消費）期限の正しい知識についても消費者庁等の資料を参考に周知をすることで、発生抑制を図りたい。

賞味期限が長く、長期保存が可能な食品類は期限切れに気付かず1年以上経ってしまっているものが多い印象を受けたことから、平成30年度（昨年度）から実施している、フードドライブなども継続して実施することや、周知を行なうことで削減に努めたい。



写真は直接廃棄された食品廃棄物

## ○食べ残し



食べ残しについては、大半が調理後、一度食卓に上がった料理の食べ残しであるため、削減にあたって料理は食べきれぬ分を考慮して作るということや、食べ残さないよう、食べきり運動について周知する必要がある。また、使いかけのバターや小麦粉などの調味料や、小包装の食品が多く見られたことから使い切りについても呼びかけを行なう。



「食べ残し」削減にあたっては、平成28年度作成の啓発ポスターを活用しながら、食べきり等について周知を図ることで削減に努めたい。



※町作成ポスター 「ぜんぶたべなきゃイカンゾウ！」

7 調査資料集

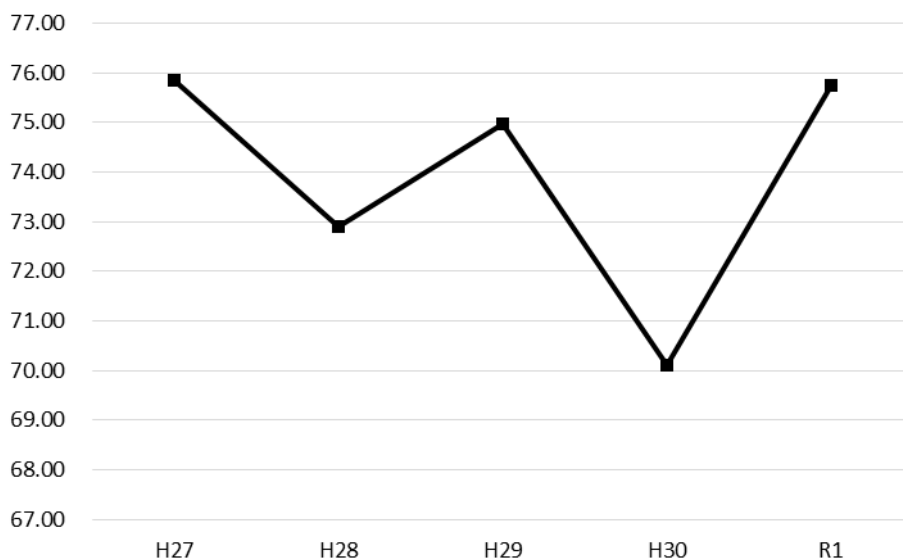
愛川町ごみ質分析調査結果一覧 (R1)

採取地区	高嶺地区	半原・田代地区	中津①地区	中津②地区	春日台地区	全体
採取(調査)日	令和元年6月18日(火)	令和元年6月27日(木)	令和元年6月25日(火)	令和元年6月14日(金)	令和元年6月24日(月)	
天候	晴	曇	曇	晴	雨	
開始・終了時刻	7:30~12:30	7:30~12:30	7:30~12:30	7:30~12:00	7:30~12:30	
作業人員(人)	20	20	20	20	20	
採取俊量(kg)・袋数(袋)	105.50 32	111.28 32	116.26 32	109.06 30	133.24 30	575.34 156
調査俊量(kg)・袋数(袋)	29.16 8	33.82 8	27.30 8	28.02 8	29.96 8	148.26 40
週ハース組成品目	重量(kg)	重量(kg)	重量(kg)	重量(kg)	重量(kg)	重量(kg)
生ごみ	12.44	15.88	8.40	10.98	7.80	55.50
食品ロス	10.84	14.69	3.62	7.41	4.01	40.57
直接廃棄	5.58	4.92	0.68	2.34	0.20	13.72
食入残し	3.84	7.96	1.98	3.82	2.92	20.52
(調理くずの内、過剰除去の推計量)	1.42	1.81	0.96	1.25	0.89	6.33
調理くず等	3.02	3.00	5.74	4.82	4.68	21.26
その他の可燃ごみ	8.17	11.04	12.38	10.04	15.16	56.79
もやすごみ	20.61	26.92	20.78	21.02	22.96	112.29
紙類	4.56	3.94	2.76	1.98	2.30	15.54
新聞・折込チラシ(資源化可能なもの)	0.53	1.32	0.50	0.00	0.28	2.63
雑誌・本・書籍(資源化可能なもの)	1.62	0.00	0.00	0.18	0.00	1.80
ダンボール(資源化可能なもの)	0.66	0.00	0.10	0.06	0.36	1.18
雑古紙(資源化可能なもの)	1.52	2.40	1.98	1.52	1.24	8.66
紙パック(資源化可能なもの)	0.23	0.22	0.18	0.22	0.42	1.27
不分別物	3.99	2.96	3.76	5.02	4.70	20.43
資源A・B (不燃ごみ、缶、ペットボトル等)	0.38	0.14	0.18	0.70	0.26	1.66
資源B (古書籍)	0.29	0.08	0.40	2.30	0.98	4.05
資源C (プラスチック製容器包装)	3.32	2.74	2.54	1.98	3.40	13.98
資源C (剪定枝・落葉・雑草など)	0.00	0.00	0.64	0.04	0.06	0.74
紙類 + 不分別物 (A)	8.55	6.90	6.52	7.00	7.00	35.97
総量(kg) (B)	29.16	33.82	27.30	28.02	29.96	148.26
分別率(100-(A/B)) (%)	70.68	79.60	76.12	75.02	76.64	75.74



愛川町ごみ質分析調査結果推移 (H27~R1)

実施年度	H27		H28		H29		H30		R1	
採取俵量 (kg)・袋数 (袋)	683.40	200	794.70	200	587.00	200	549.20	153	575.34	156
調査俵量 (kg)・袋数 (袋)	683.40	200	794.70	200	587.00	200	137.82	47	148.26	40
温ベース組成品目	重量 (kg)	重量比 (%)	重量 (kg)	重量比 (%)	重量 (kg)	重量比 (%)	重量 (kg)	重量比 (%)	重量 (kg)	重量比 (%)
生ごみ	283.00	171.41	356.50	165.58	249.30	169.59	46.30	33.59	55.50	37.43
食品ロス					56.38	9.60	20.04	14.54	40.57	27.36
直接廃棄					29.70	5.06	5.16	3.74	13.72	8.89
食べ残し							9.74	7.07	20.52	13.90
(調理くずの内、過剰除去の推計量)					26.68	18.15	5.14	3.73	6.33	4.27
調理くず等					219.60	292.96	31.40	44.79	21.26	14.40
その他の可燃ごみ	235.30	34.43	222.90	28.05	190.70	32.49	50.33	36.52	56.79	38.46
もやすごみ	518.30	75.84	579.40	72.91	440.00	74.96	96.63	70.11	112.29	75.74
紙類	68.20	9.98	103.20	12.99	71.20	12.13	18.00	13.06	15.54	10.48
新聞・折込チラシ (資源化可能なもの)	8.40	1.23	11.30	1.42	6.80	1.16	1.92	1.39	2.63	1.78
雑誌・本・書籍 (資源化可能なもの)	13.90	2.03	19.60	2.47	5.30	0.90	0.23	0.17	1.80	1.22
ダンボール (資源化可能なもの)	3.60	0.53	6.90	0.87	6.50	1.11	1.63	1.18	1.18	0.80
雑古紙 (資源化可能なもの)	38.90	5.69	61.90	7.79	48.30	8.23	12.92	9.37	8.66	5.86
紙バック (資源化可能なもの)	3.40	0.50	3.50	0.44	4.30	0.73	1.30	0.94	1.27	0.86
不分別物	96.90	14.18	112.10	14.11	75.80	12.91	23.19	16.83	20.43	13.78
資源A・B (不燃ごみ、缶、ペットボトル等)	12.10	1.77	8.80	1.11	5.10	0.87	2.65	1.92	1.66	1.12
資源B (古書類)	8.10	1.19	16.20	2.04	14.30	2.44	4.22	3.06	4.05	2.74
資源C (プラスチック製容器包装)	31.40	4.59	45.00	5.66	42.00	7.16	13.09	9.50	13.98	9.47
資源C (剪定枝・落葉・雑草など)	45.30	6.63	42.10	5.30	14.40	2.45	3.23	2.34	0.74	0.50
紙類 + 不分別物 (A)	165.10	24.16	215.30	27.09	147.00	25.04	41.19	29.89	35.97	24.26
総量 (kg) (B)	683.40		794.70		587.00		137.82		148.26	
分別率 (100-(A/B)) (%)	75.84		72.91		74.96		70.11		75.74	



分別率の推移 (H27~R1)

愛川町可燃ごみ質分析調査（食品ロス詳細）結果一覧（R1）

採取地区	高 峰 地 区 令和元年6月18日（火）	平原・田代地区 令和元年6月27日（木）		中 津 ① 地 区 令和元年6月25日（火）		中 津 ② 地 区 令和元年6月14日（金）		春 日 台 地 区 令和元年6月24日（月）		全 体		
		重量 (kg)	重量比 (%)	重量 (kg)	重量比 (%)	重量 (kg)	重量比 (%)	重量 (kg)	重量比 (%)	重量 (kg)	重量比 (%)	重量 (kg)
湿ベース組成品目												
直接廃棄	5.58	44.86	4.92	30.98	0.68	8.10	2.34	21.31	0.20	2.56	13.72	24.72
賞味（消費）期限内	0.12	0.96	0.48	3.02	0.00	0.00	0.16	1.46	0.12	1.54	0.88	1.59
賞味（消費）期限切れ1週間未満	0.00	0.00	1.38	8.69	0.00	0.00	0.14	1.28	0.00	0.00	1.52	2.74
賞味（消費）期限切れ1週間以上1年未満	0.62	4.98	2.58	16.25	0.06	0.71	0.84	7.65	0.00	0.00	4.10	7.39
賞味（消費）期限切れ1年以上	1.62	13.02	0.00	0.00	0.00	0.00	0.16	1.46	0.00	0.00	1.78	3.21
期限表示なし	2.72	21.86	0.44	2.77	0.60	7.14	0.72	6.56	0.04	0.51	4.52	8.14
液体物	0.50	4.02	0.04	0.25	0.02	0.24	0.32	3.68	0.04	0.51	0.92	1.66
食へ残し	3.84	30.87	7.96	50.13	1.98	23.57	3.82	34.79	2.92	37.44	20.52	36.97
賞味（消費）期限内	0.14	1.13	0.56	3.53	0.04	0.48	0.06	0.55	0.20	2.56	1.00	1.80
賞味（消費）期限切れ1週間未満	0.04	0.32	0.60	3.78	0.22	2.62	0.08	0.73	0.10	1.28	1.04	1.87
賞味（消費）期限切れ1週間以上1年未満	0.10	0.80	0.28	1.76	0.16	1.90	0.30	2.73	0.00	0.00	0.84	1.51
賞味（消費）期限切れ1年以上	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
期限表示なし	3.56	28.62	6.52	41.06	1.56	18.57	0.94	8.56	2.62	33.59	15.20	27.39
液体物	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	2.44	63.87	0.00	0.00	2.44	11.89
調理くず	3.02	24.28	3.00	18.89	5.74	68.33	4.82	43.90	4.68	60.00	21.26	38.31
調理くずのうち、過剰除去	1.42	11.40	1.81	11.40	0.96	11.40	1.25	11.40	0.89	11.40	6.33	11.40
総 量	12.44		15.88		8.40		10.98		7.80		55.50	

※ 直接廃棄 …… 未開封・未加工（手つかず）の食品（例：調理や食べられた形跡のない野菜等、複数パックのうち開封されていない小包装食品 など）  
 ※ 食へ残し …… 開封・加工済みの食べきれなかった食品（例：ハタがとられているなど加工された野菜等、食べられた形跡はないが開封済みで外気に触れる状態のもの など）  
 ※ 調理くず …… 直接廃棄、食べ残し以外で野菜の皮など通常食べずに廃棄するもの（例：野菜等の皮、魚等の骨 など）  
 ※ 過剰除去 …… 調理くずのうち、本来食べることでできる部分まで過剰に取り除かれたもの（例：剥きすぎた野菜等の皮 など）  
 ※ 液体物 …… しょう油やドレッシングなど調味料等の液体の食品

○参考資料

- 環境省 平成30年6月策定  
「第四次循環型社会形成推進基本計画」
- 環境省 平成31年3月作成  
「平成30年度食品廃棄物等の発生抑制及び再生利用の促進の  
取組に係る実態調査報告書」
- 神奈川県ごみ処理広域化推進会議 平成30年3月策定  
「食品ロスの調査マニュアル」
- 神奈川県 平成31年3月策定  
「平成29年度 神奈川県 一般廃棄物処理事業の概要」



愛川町

愛川町可燃ごみ質分析調査結果

令和元年7月

発行	愛川町環境経済部環境課廃棄物対策班
住所	神奈川県愛甲郡愛川町角田251番地1
電話	046-285-2111(代)
FAX	046-286-5021
e-mail	kankyo@town.aikawa.kanagawa.jp